

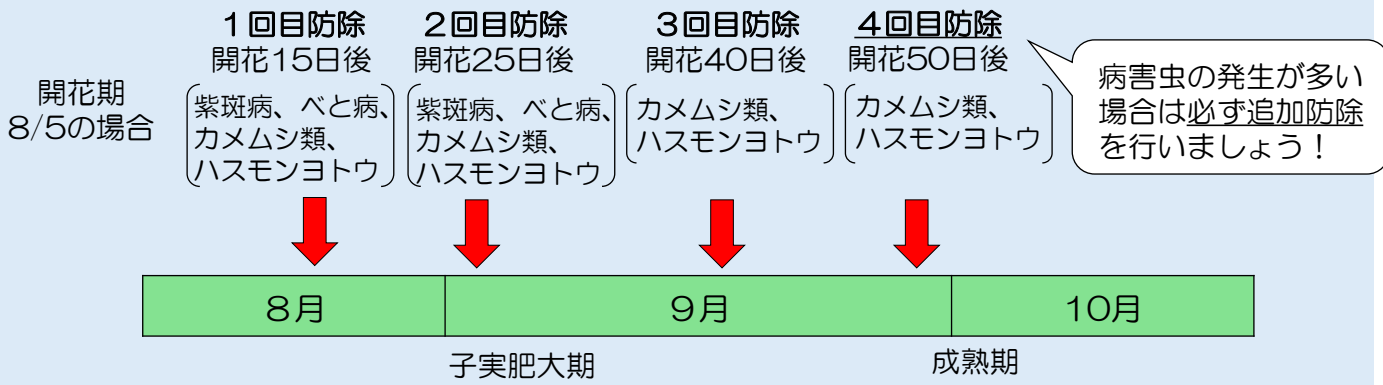
稲・麦・大豆かわら版
～大豆編(病害虫防除・適期収穫)～

2025.9.30 発行
栃木県塩谷南那須農業振興事務所
経営普及部 0287-43-2318
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g55/>

9月下旬～収穫期までのポイント

- 猛暑により害虫が増加しているため、9月下旬～10月上旬に必ず薬剤防除を行いましょう！
- 適期収穫を行い、しわ粒や腐敗粒の発生を防止しましょう！

1 病害虫防除時期



2 主な病害虫の被害とその対策

	べと病	紫斑病	カメムシ類	ハスモンヨトウ
写真	 出典：令和5年産大豆の栽培技術指針		 イチモンジカメムシ アオクサカメムシ ホソハリカメムシ	
被害	・葉に黄色病斑 ・子実に乳白色の菌糸	・子実に紫色斑点	・子実肥大初期の吸汁害 ・子実肥大期の吸汁害	・葉の食害(葉脈のみ残る場合あり)
本作対策	・調製を丁寧に 行い、べと病粒を 除去する	・収穫後速やかに 乾燥を行う ・多発したほ場では 秋耕を行い、罹病 残渣を土中に埋める	・9月下旬～10月上旬に追加で 薬剤防除を行う	・白変葉の除去、 幼虫集団を食害 葉ごと摘み取る ・9月下旬～10月 月上旬に追加で薬 剤防除を行う
次作対策	・多発したほ場は 連作を行わない ・過繁茂を防ぐた め、密植や早播 きを避ける ・開花10日前～子 実肥大期に薬剤 防除を行う	・多発したほ場は 連作を行わない ・種子伝染性のた め、種子消毒を 徹底する ・開花15～35日 後に薬剤防除を 行う	・開花15日後に1回 目の薬剤防除を 行い、その後10～ 14日おきに3～5 回薬剤防除を行う ・別系統の薬剤を ローテーション 散布する	・発生初期(若齢 幼虫)に薬剤防 除を行う ・別系統の薬剤を ローテーション 散布する

3 適期収穫の目安

落葉期		○葉や葉柄が黄化して落ちる、または手で触って簡単に落葉する頃 ○莖水分70%程度 →莖に緑色が残っている ※成熟期までの日数 ・落葉5割：成熟期まで約10日程度 ・落葉8割：成熟期まで約5日程度
成熟期	完全落葉後15～25日 	○葉や莢が品種特有の色に変化し、莢を振るとカラカラと音がする頃 ○莖水分60%程度 →莢と同等の褐色
収穫適期	成熟期後10日～ 	○<u>穀粒水分18%以下</u> →爪を立てると少し跡が残り、歯で噛むと割れる程度 ○<u>前日・当日の降雨なし</u> →収穫可能時刻は10～17時頃 ○<u>莖水分40%以下</u> →ほとんどの莖が黒変を始め、手で折ると軽くポキッと2つに折れる ※しわ粒や腐敗粒の発生防止のため、適期を逃さずに収穫を行う

※写真提供：那須農業振興事務所

4 しわ粒＜適期を逃すと「亀甲じわ」、生育後半の栄養不足で「ちいめんじわ」＞

	亀甲じわ	ちりめんじわ
写真	 出典：令和5年産大豆の栽培技術指針	 出典：令和5年産大豆の栽培技術指針
発生原因	・子実形成から収穫期前後までの乾燥・吸湿の過程で、皮と子実の膨大・縮小の繰り返し	・生育後半の栄養不足
対策	・<u>収穫適期を逃さない（刈遅れNG!）</u> ・収穫時に青立ち株や残草がある場合は予め抜き取っておく ・収穫後一時貯留する場合は、湿度の高い場所に置くと水分が戻り、亀甲じわ粒の発生が多くなるため注意する	・子実肥大盛期頃の栄養状態の改善 →<u>土壌診断に基づき土づくり肥料の施肥を行う</u> 肥効調節型肥料や微量元素（堆肥等）の施用 ・牛ふん堆肥 1～2t/10a ・発酵鶏ふん250kg/10a